

観音山（1640m）、旭岳（1835m）

3 月 2 日（土） 秋葉、渡辺（敏）

これまで、観音山まではスキーで何度か来ている。観音山の山頂から眺める旭岳は威厳があり登行意欲を掻き立てられるが、厳しそうで行けるかどうかわからなかったが、観音山から旭岳への山行記録があり、どうやらの登れそうであることが分かった。先月スキーで観音山まで来て、そこから歩いて旭岳まで登ろうとしたが時間切れで断念せざるを得なかった。そのリベンジとして今回旭岳まで行くことにした。時間がかかるのでできるだけ早く出発できるように、水石トンネルを 5:00 出発、登山口を 7:00 頃に出発できるようにした。若干風があるが好天である。スキーの時は向かって右の尾根を登っていたが、今回は左の尾根を進んだ。雪が締まっていて、ワカンをつけなくても沈まない。しかし、斜面が急になってきたのでアイゼンを付けた。雪解けも進み痩せ尾根では雪がほとんどないところもある。2 時間ほどで観音山の山頂に到着、さらに旭岳を目指して進んだ。旭岳へのポイントは頂上直下のコブの登りでがかなり手ごわそうな感じがする。コブへの登りは結構斜度があり、さらに困難なのは雪面の踏み抜きである。雪面の下には藪があり、藪の中に足を突っ込んでしまい、脱出するのに苦労する。標高が上がると風が強く寒い。しかし、何とかスムーズに旭岳山頂に到着できた。帰りはアイゼンとワカンを同時に着けて下った。やはりワカンをつけると踏み抜きもかなりやわらぎ、スムーズに下山することができた。このような状況ではスノーシューよりもワカンの方が利用価値が高い。前から、登りたいと思っていた旭岳へ登ることができて満足でした。



観音山の山頂にて

コースタイム

野際新田登山口 7:04→観音山 9:00 9:11→旭岳
10:38 11:01→昼食 11:27 11:52→観音山
12:44→登山口 14:06

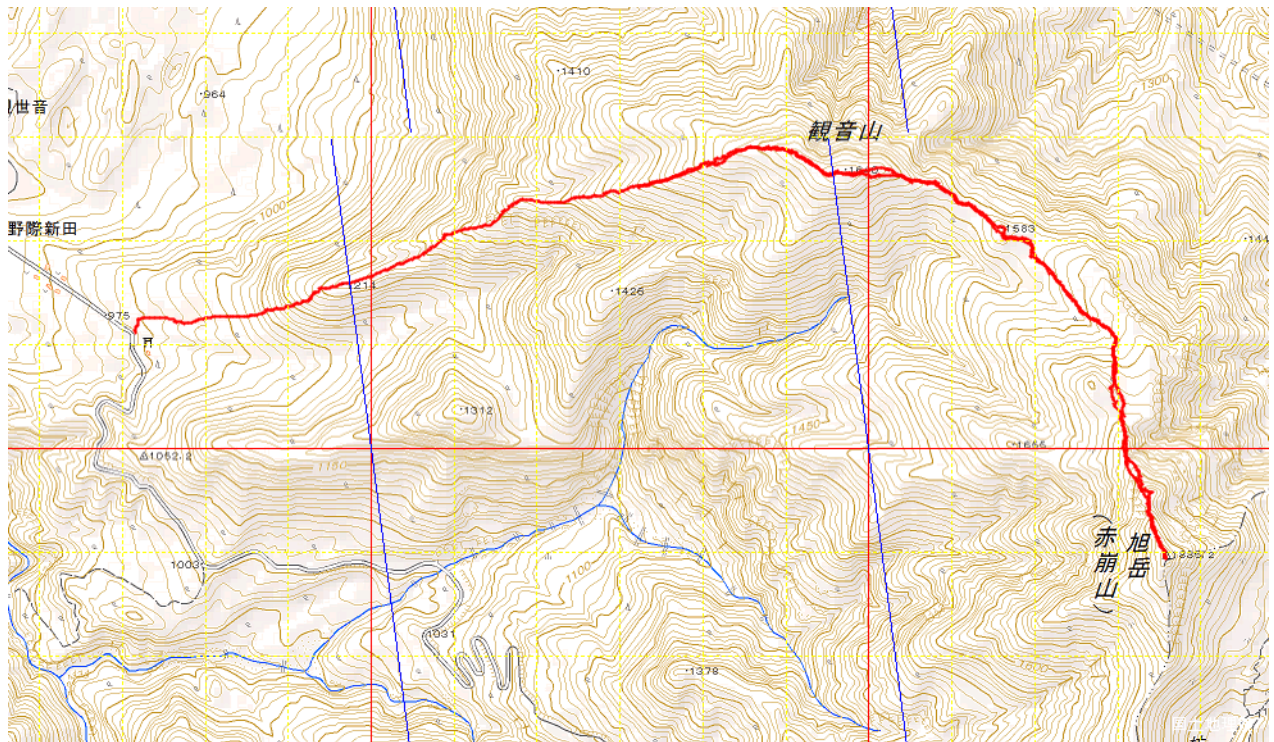
文責：渡辺敏夫



観音山から望む旭岳



見上げる旭岳直下のコブ



花園溪谷の山々と和尚山

2019年3月24日（日） 志尾崎、西、斎藤、太

会員の斎藤さんの転居前の、常磐地方の山々の思い出づくりに、常陸五山最北「花園山」に「花園神社奥の院峰」を、茨城県単独最高峰「栄蔵室」を、また併せて同トップ3「和尚山」を登った。

【花園神社奥の院峰（700m）】周回



午前 8 時少し前に花園神社前の北茨城市営駐車場に到着。水洗トイレを利用し、周辺案内図など確認。

午前 8 時、「七ツ滝遊歩道入口」に到着。近くの駐車スペースは5台程度。こちらにもトイレ（水洗ではない）がある。ちなみに、トイレ建屋は円柱で、外壁面は樹皮を模し、まるで巨樹の切り株のようだ。

石鳥居をくぐり「奥の院参道」を登っていくと、すぐに「七ツ滝」。水量は多くないものの、高所から何段にもわたって落ちる滝は、修験の場、幽玄さを感じさせる。道は滝の下を横切って、急斜面の階段になる。一気に登ると、滝の中段に至り、ここからクサリ場が連続。気を引き締め、岩や根に掴まり、よじ登る。登りきったところが花園神社の奥の院。痩せ尾根の先端で、大樹に守られるように、小さな石の祠が鎮座する。梢の下、遠くに太平洋が見える。清々しい雰囲気は急登の疲れを忘れさせてくれる。

祠の奥を少し進むと月山方面への分岐。ここから順に月山、男体山、女体山と枝尾根の先端を左廻りに巡って下りてゆく。急な沢を下ると「七ツ滝遊歩

道出口」で林道と出会い、駐車場所まで戻った。

コースタイム

8：12七ツ滝遊歩道入口→8：19七ツ滝→8：45花園神社奥の院→8：56分岐→8：58月山→9：01男体山→9：05女体山→9：19七ツ滝遊歩道出口→9：27七ツ滝遊歩道入口



【栄蔵室（881m）・花園山（798m）】ピストン



最初に奥の院峰に登ったので、「猿ヶ城林道」側ではなく、「栄蔵室林道」側から登る。奥の院峰の下山で通った林道を車で登り返し、さらに進んだ後、「栄蔵室」への支線を入れてゆく。スギ林の中、小さな案内板のところに駐車し、登り始めること数分で展望「富士見台」。春霞のせいでデッキから富士山は見えない。その少し先、林の中が「栄蔵室」の山頂で、一等三角点と標柱、ベンチがある。多少木々の向こうに遠くを望めるが、あまり視界はきかない。林を進むと落葉樹の苗が植えられた広場に出る。ここが栄蔵室アンテナ跡地で、広場を左に見ながら進み、階段を下って出合った林道を右に終点まで歩く。スギ林の中を歩き、少し下った笹原に分岐があり、分岐を花園山方向へ。小川に沿ってしばらく下り、尾根に登り返した先が花園山。案内板とベンチはある。こちらの峰も視界は開けてはいない。風が冷たかったので、休まず駐車場所に戻り、車で下山した。

コースタイム

9：55 栄蔵室林道支線駐車場所 → 10：05 栄蔵室山頂 → 10：25 花園山分岐
→ 10：50 花園山山頂 → 栄蔵室山頂 → 11：50 栄蔵室林道支線駐車場所

【和尚山（804m）】ピストン



花園神社に参拝後、北茨城市営駐車場に戻り、簡単な昼食に贅沢なデザートを食べた後、車で花園溪谷を抜け、県道を「和尚山」へ向かう。

登山口は道路脇の小さな案内が目印。その反対側に駐車スペース3台程度。落葉樹林の中を登ると、スギ林の中で作業道に突き当たり、これを左に少し進むと、右に尾根に向かう道がある。尾根を左に進むと落葉樹林の急登になり、登り切ったと

ころが頂上。頂上は日当たりの良い広場になっているが周りは雑木で囲まれている。それでも落葉した木々の向こうにぐると山々が見える。頂上広場には三角点と山頂標識がある。

コースタイム

13：55 登山口 → 14：14 和尚山山頂 → 14：26 登山口 （文責：太）

第7回「いわきの山を歩く会」

ところ 往生山（ 599m ）

とき 平成 31 年 3 月 31 日（土）曇り

参加者 石城山岳会、勿来岳友会、藤原山の会、市内一般参加者等 合計 85 名

今回は、80 代の山のベテラン先輩をお誘いして三人での初参加となりました。遠野町入遠野のオートキャンプ場駐車場へ集合し、小雨模様の中、秋葉校長、平子会長から登山班編成等の説明、往生山が修行の山、パワースポットとして人気のある山との説明をお聞きして、各班、車に分乗して、天王川登山口まで移動しました。10 名ほどの班にわかれて曇天模様の出発でしたが、登り始めてからは、天気回復の予感。登山口ゲートからしばらくは、立派な林道歩き、アップダウンの道を辿り、ふかふか枯葉のプールに入ったり、体重制限のありそうな丸太橋を渡ったり、ガスの中の幻想的な杉林を歩いたりなど里山ならではの山を楽しみました。先輩会員からお聞きしますと数年前までは、登山道も荒れてしまっていて、会の草刈り等によりここまで回復したとのこと。里山の道迷いは怖いですから登山道整備に感謝です。（いわきの山のスタンプラリーを始めますか!!）



途中、小休止では、リーダーからのアドバイスで休憩場所の選択一つでも、がけ崩れ下を避けて、岩肌を確認しながら休むなど絶えず危機回避意識を持つことを教わりました。往生山の頂上直下は急登で一気に登るとまだ少し芽吹きに早いタラの芽が待っていました。頂上のスペースは限られており、小休止して同じ道を分岐まで下り、30 分ほど歩くと大きな石が寄り添う「添石」（てんせき）が現れます。（K さん曰く鯨の口に見えますよね）さらに一旦伐採路に下り、591m 峰入口の標識から登り返すと途中、大木があり「幹回 3.45CM」の小看板を発見！ちっちゃ！（多分幹周は、3.45M かな）まもなく「極位峰」に到着。ここで楽し

いランチタイム。朝ドラ「まんぷく」ヌードルの発明に感謝しつつ、3 分間待ち温かい麺を頬張る！体も天気も回復してきて、いよいよ下りです。途中の登山道には、春蘭も咲いていて、春は、近い。30 分も下ると薔薇のように「読めるが書くのは難しい」素敵な「懺悔坂」看板に出会います。覚悟を決めて、トラロープを頼りに慎重に下ること 15 分、沢音が聞こえてきて、漸く登山口駐車場が見え無事ゴールできました。



山岳会主催に感謝です。

帰りは、温泉よりパワースポットにあやかって「宝くじ売り場」直行ですかね～

コースタイム 登山口 8：47⇒往生山頂上 9：57⇒添石 10：24⇒極位峰 11：06⇒懺悔坂 12：12⇒登山口 12：27 （文責：赤塚）



『ヘッポコの八甲田山バックカントリースキー報告』

菅野靖司

安達太良山岳会のスキーツアーに同行させて頂き、初めての
八甲田山スキーに行ってきました。

2月18日(月)二本松を3時半に出発し、^{げとうこうげん}岩手県夏油高原スキー場へ7時前に到着。^{げとうこうげん}夏油高原スキー場は、グレンデの中央付近にバックカントリースキーを楽しめるコースがあります。登りはゴンドラで行く事が出来、楽チン山スキーを楽しみました。13時過ぎに出発して八甲田山の麓、酸ヶ湯温泉に到着。名湯大浴場が気持ちいい！

2月19日(火)『八甲田山温泉ルート』を滑走

車1台を八甲田山温泉ヘデポ。ロープウェイ搭乗口で待機。設備トラブル？運行1時間遅れで頂上へ！マンモス樹氷と大パノラマが出迎えてくれました。まず田茂范湿原をへて1232コルヘ到着急登を下り沢の東緩斜面を滑り八甲田温泉ヘ到着。急斜面がパウダーで無かったのが残念でした。1232コルヘ下る時ルート取りが悪く4、5メートルの雪庇からダイブしてしまいました(T~T；。)イターッ!!

2月20日(水)午前『銅像ルートを滑走』

車1台を銅像茶屋ヘデポ。山頂駅から樹氷の間を抜け前獄方面へ雪庇が多く樹氷の周りには大きくえぐれているのでルート取りを慎重に進んだ。前獄中腹からの滑走となるが、雪崩の起き易い地形なので装備を早々に整え滑走。多少パウダー気味の気持ちにいい斜面でした。疎林帯に入り滑りやすいコースなので安達太良山岳会の方々が飛ばしまくっていました。お気に入りのコースとなりました。

午後 『中央ルートからダイレクトコース』

山頂駅から直ぐに一般コース外へ山スキーガイド本には掲載されていないコースです。狭い樹林帯と小さな雪庇が多く初心者の私は先輩方の後ろを滑走しました。ダイレクトコース横の樹林帯は立木が、狭いが適度な傾斜があり楽しいコースです。ダイレクトコースとの間に沢がありコースに戻れる所はピンポイントなので GPS で現在地をこまめに確認しての滑走でした。地元の方が良く滑っている？

2月21日（木）『フォレストコース』

山頂からコース案内番号に従い滑走します。頂上付近は樹氷の間を滑るので番号看板を良く確認しながらの滑走です。一般客？ガイドが無くても滑る事が出来るのでコースは圧雪状態です。

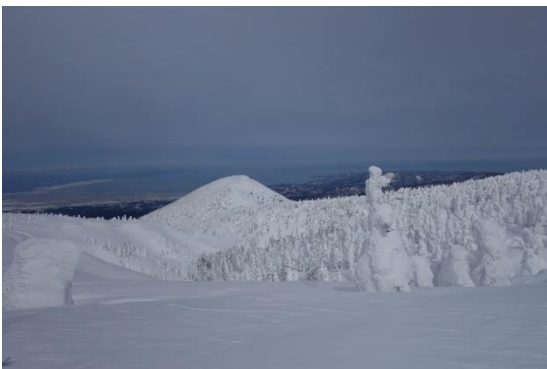
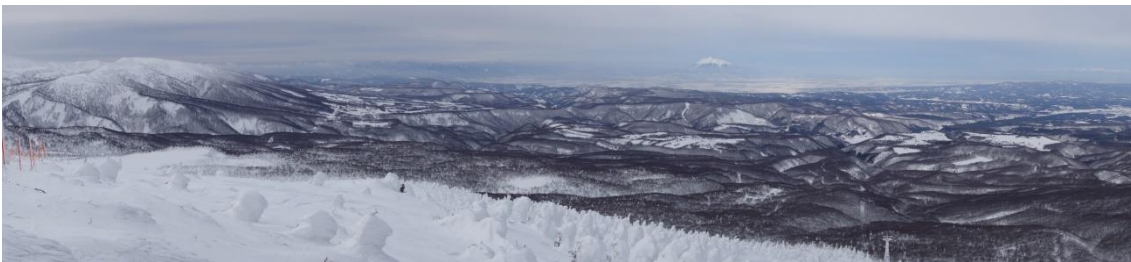
今回のスキールートは下記 URL の PDF で確認できます。

<http://www.hakkoda-ropeway.jp/wp-content/uploads/2015/03/tourroute.pdf>

安達太良山岳会の方々にお世話になった事でガイド料¥4000/日も無く安く行けました。大変お世話になりました。大感謝です。

酸ヶ湯温泉は自炊も出来るので、今回も食材を用意して自炊でした。『酸ヶ湯温泉予約は 1 年前に入れている』との事でした。

いわき山岳会でもツアー計画しましょう◆♪◆・*:. ◆♪◆*° ° °・*:. ◆



二岐山（1544.3m）

平成 31 年 4 月 14 日（日）快晴

参加者 石城山岳会会員 13 名、教室生徒 11 名



2019 年度登山教室 2 年目の最初の山行は、二岐山登山です。

お天気に恵まれましたが 3 月に降った大雪の為、当初の予定を変更して 941m 女岳登山口

から頂上までのピストン山行となりました。

「ワカン」を履いた山岳会の最高・最重ラッセル隊の後を 11 名の生徒が舌好調の下山田 CL を先頭に登山を始めました。

途中、雪も深くなり 2 月の山行で着け方を教わったアイゼンを手袋をしたまま着ける実践となりました。アイゼンでの登山は初めての生徒も多く、ゆっくり、

しっかり歩を進めました。

途中、“地獄坂”と呼ばれる急登がありましたが、会員さんに雪に埋もれたロープを掘り起していただき全員山頂（女岳）に着くことが出来ました。

頂上到達を秋葉校長先生の「万歳三唱」で称えあいました。恒例の雪のテーブルでの昼食の準備中、さらに有志 9 名は、心強いラッセル隊を先頭に目の前に見える男岳山頂を目指しました。山頂は無風状態で快晴という好条件の下、360 度見渡す限り絶景で疲れも吹き飛びました。また男岳に向かう途中から女岳の頂上に向かって互いに“ヤッホー”の掛け合いを行い、とても楽しかったです。秋葉校長先生からは、頂上から望む山々の名前も



教えていただき、より一層身近に感じました。下山は登りよりも大変で尻もちをつく人、頭から突っ込む人、雪を踏み抜く人で「ぎゃー」「あ” あ” あ” っ-」「うわああああ〜」の悲鳴があちこちで聞かれ、大騒ぎでした。中には、足を攀った人もいましたが全員無事に下山できました。下山後は、地元の柏木旅館の熱めの湯（露天は混浴）で疲れを癒すことができました。

いつもながら、山岳会の皆様の経験と知恵と安全運転で全員無事に帰路につくことが出来ました。本当にありがとうございました。

今回は、「平成最後」の辛く楽しい記憶に残る素敵な雪山登山でした。

コースタイム 4 月 14 日（日）いわき合同庁舎 5：00⇒女岳登山口 8：00⇒女岳山頂 10：40⇒男岳山頂 11：20⇒女岳山頂 11：55⇒下山 12：45⇒女岳登山口 14：10⇒柏木旅館⇒いわき合同庁舎 18：00